

# 鳥獣被害には 地域で 立ち向かう！



## 集落ぐるみの対策が必要です！

鳥獣対策を、個々で「点」として行なった場合、対策をしていない隣接地に被害が分散してしまいます。集落でまとまり、「面」として対策を行なうことが必要です。

- 個人での「点」から、集落での「面」の対策へ
- 地域全体での被害軽減
- 個人の負担が軽減



集落ぐるみの被害対策は、低コスト・低労力で効果の高い対策を進めることができます。

## 合意形成が 重要です！

集落ぐるみの対策は、「集落みんなで取り組む」合意がないままスタートすると失敗します。まずは、この合意形成を図ることが重要です。

### 緩衝帯

- ・野生動物は、身を隠すことが出来ない開けた環境では、警戒心を持ちやすい。
- ・山と農地の間に見通しの良い環境（緩衝帯）の設置によって、野生動物を農地へ出没しにくくします。

### 家畜の放牧による 緩衝帯の維持管理

### 防護柵

- ・防護柵は、設置や管理方法が適切であれば、効果的で確実な方法です。

### 適正な個体数管理

- ・集落に近づくイノシシ、シカ等を捕獲して被害を軽減します。捕獲は目的や計画を明確にし、その効果検証が必要です。

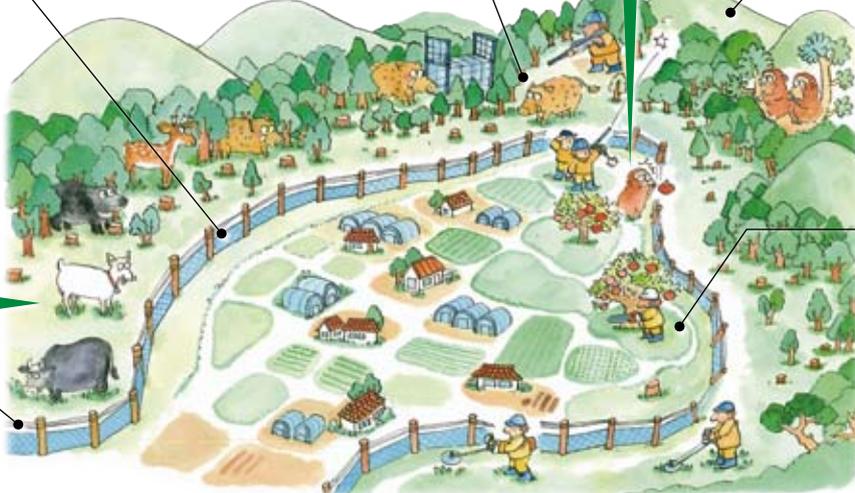
### ロケット花火を用いた 農地からのサルの追い払い

### 生息地の環境整備

- ・標高600m以上の奥地の広葉樹林を維持し、人工林は、針広混交林へと誘導します。
- ・生物多様性にとんだ森林へ誘導します。

### 集落を野生動物の 餌場にしない

- ・集落ぐるみで、まずは「餌付けとは何か、被害とは何か」を勉強することが必要です。
- ・人にとって田んぼのヒコバエは被害ではありませんが、サルやイノシシは収穫する野菜や果樹との区別はつきません。



イラスト：かけやままき

お問い合わせ

島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科  
電話：0854-76-2025(代表)

裏面で、益田市匹見地区・  
浜田市美川西地区での  
活動例をご紹介します。



手順の一例

- ① 集落リーダーの選定と集落内での合意形成
- ② 「無意識の餌付けとはなにか」などの勉強会
- ③ 集落点検
- ④ 鳥獣を引き寄せる放置果樹などの除去
- ⑤ 追い払いと防護柵の設置
- ⑥ 集落での捕獲体制の整備



## 益田市 匹見地区

益田市匹見地区では、

- ① 獣を知る（勉強会）
- ② 集落を知る（集落点検）
- ③ みんなで行動（広域電気柵の維持管理）

などの活動で、地区公民館が住民と行政の調整役となり、重要な役割を果たしました。

集落ぐるみの被害対策では、地区公民館のように地域に根差したネットワークを発掘、活用して取組みを進めることが鍵となります。



勉強会の様子



広域電気柵の維持管理



集落点検の様子

## 浜田市 美川西地区

浜田市美川西地区では、集落点検、広域防護柵の設置と維持管理などを実施してきたなかで、集落の垣根を越えた新たなネットワーク「美川西鳥獣対策専門部会」が発足しました。

これは大きな課題であった集落の人手不足を補い合う取り組みであり、専門部会と関係機関が連携した、新しい形の協力体制です。

### [美川西鳥獣対策専門部会の体制]



集落点検の様子



広域防護柵(ワイヤーメッシュ柵)の維持管理

詳しくはウェブサイトへ▶ <http://www.wwf.or.jp/shimane/>